

医師業務をタスクシフト・タスクシェアした好事例

特定行為研修修了看護師・医師事務作業補助者による医師の業務負担軽減を図った取組事例 【若草第一病院】



他職種とのタスク・シフト/シェア：

特定行為研修修了看護師の配置、医師事務作業補助者の配置



- 社会医療法人（大阪府東大阪市）
- 高度急性期機能、急性期機能
- 病床数230床（高度急性期病床10床、急性期病床220床）
- 職員数483名（医師46名、看護師202名、医療技術職108名、事務職員等127人）

【医師の働き方改革に取り組むまでの経緯】

- 当該病院の外来診療時間は午前中のみのため、多くの医師は午前中に外来診察を行い、午後に手術や入院患者の治療に取り組んでいた。
- 午前中には外来患者から診断書や各種証明書の作成依頼もあり、救急患者の対応などで定時に書類を作成する時間を確保できないこともあった。
- 医師による実施が必須ではないCVカテーテルの挿入や褥瘡処置、創傷管理なども医師が行っており、これが医師の業務負担に繋がっていた。
- 院長が「スタッフの専門性を活かすことで患者に安心安全の医療を提供するとともに「医師待ち」の解消と医師の業務負担軽減する」方針を示したことにより、認定看護師や特定行為研修修了看護師の配置と医師作業補助者が配置された。

【取組概要】

特定行為研修修了看護師の配置

- 外科系病棟・褥瘡外来、救急外来、集中治療室に認定看護師の資格を持つ特定行為研修修了看護師を配置した。
- 認定看護師としての専門性を活かし、医師業務の一部を特定行為研修修了看護師とタスクシェアを進めた。
- 看護師としての専門性を高めるために、院内外で情報交換を行った。
- 院外との交流でタスクシェアできそうな事例について情報があれば当院に持ち帰り、医師と相談しながらタスクシェアの検討を進めた。

医師事務作業補助者の配置

- 医師の事務作業における負担軽減を目的に、医師事務作業補助者を各診療科外来に配置した。
- 電子カルテの代行入力や各種診断書の医療文書の作成補助、診療データの登録、クリニカルパス関連管理業務を医師事務作業補助者にタスクシフトした。
- 医師事務作業補助者の自立に向け、医師と看護師がサポートをしたり、やりがいのある仕事とじてもらうために学会で発表する機会を与えた。

※若草第一病院の事例で記載する「看護師」は特定行為研修を修了した認定看護師を指す

【医師業務を看護師とタスクシェアするための進め方】

- ・ **看護師のタスクシェア内容の検討**
 - 院長を中心とする医師と看護部のメンバーが、医師業務のどの部分を看護師とタスクシェアできるかについて検討を進めることとした。
 - 特定行為区分（38行為21区分）を確認し、特定行為研修を修了した認定看護師の専門知識やケアの視点を活かすことができる医師業務を看護師にタスクシェアすることができないかを検討した。
 - 患者に医療を提供する際に、看護師が全ての処置を医師に確認していると適切な対応が迅速にできないことに加え、患者のためにならないという考えのもと、患者の医師待ち状態を解消し、より迅速な医療を提供できるようにするためには、どんな医師業務を看護師とタスクシェアすることができるかといった観点でも検討を進めた。
- ・ **認定看護師や特定行為研修修了看護師の育成**
 - 現場で看護業務を行う認定資格を持たない看護師の中でも、認定看護師の資格を取得できそうなスキルを持つ者もいる。そのような看護師には看護部内で認定看護分野の情報を共有した。
 - 資格取得には費用も時間も要するため、資格取得を目指す看護師にどのようなサポートをすることができるかの検討を行った。
- ・ **看護師のタスクシェア内容の拡充**
 - タスクシェア開始当初は医師とタスクシェアする業務は限定的であった。
 - 看護師から医師に対し、患者へ迅速なケアを提供するためにタスクシェアできる業務がないかの確認や提案を行った。
 - 看護師から提案のあったタスクシェア業務について、医師が実施可能かどうかを検討した。問題がないと判断された業務については、医師が指示書を更新し、看護師は手順書に従って診療を補助するようにした。

資格取得等のサポートした看護分野

皮膚・排泄ケア：1名	緩和ケア：1名
救急看護：1名	がん性疼痛看護：1名
集中ケア：1名	感染管理：2名
特定行為研修受講：3名	

医師業務をタスクシフト・タスクシェアした好事例

特定行為研修修了看護師・医師事務作業補助者による医師の業務負担軽減を図った取組事例 【若草第一病院】

【具体的な取組内容】

・ 医師の一部業務を特定行為研修を修了した認定看護師とタスクシェアした

当該病院の皮膚・排泄ケア認定看護師、救急看護認定看護師、集中ケア認定看護師は特定行為研修修了看護師でもあるため、手順書に示された範囲においてタイムリーに診療の補助を行っている。

認定看護分野	皮膚・排泄ケア認定看護師	救急看護認定看護師	集中ケア認定看護師
配置部署	外科系病棟・褥瘡外来	救急外来	集中治療室
医師と認定看護師がタスクシェアしている主な業務	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 胃ろうケア ✓ ストーマケア ✓ 壊死組織除去 ✓ 陰圧閉鎖療法 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ PICC（末梢静脈挿入型中心静脈カテーテル）挿入 ✓ 手術助手や周術期管理 ✓ 輸液栄養管理 ✓ 創部及びドレーン管理 ✓ 麻酔補助管理（Aライン確保・輸液他薬剤投与量の調整） ✓ 救急搬送患者の処置やコンサルテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 呼吸器関連管理 ✓ 輸液栄養管理 ✓ 循環器系薬剤調整 ✓ 救急搬送患者の情報を看護師に共有するとともに初期看護を実施

【看護師による褥瘡処置】



【看護師によるPICC挿入】



医師業務をタスクシフト・タスクシェアした好事例

特定行為研修修了看護師・医師事務作業補助者による医師の業務負担軽減を図った取組事例 【若草第一病院】

【継続的に取組みを実施・運用するために行った施策】

- 他病院の看護師と情報共有する場を設け、当院でも実践できるタスクシェアの幅を広げている
 - 同法人内の他の医療機関には15名程度の認定看護師や特定行為研修看護師が勤務している。半期ごとに、同法人内の医療機関に勤務する認定看護師同士が情報交換や意見交換を行うための交流会が開催されており、ここでは系列病院同士の活動報告や医師とのタスクシェアについてディスカッションしている。系列病院の看護師から共有される情報や意見を参考に、当院でも実践できそうなタスクシェアがあれば、当該病院の医師と協議検討している。
- 経営層は看護師の「やりたい・頑張りたい」という意欲を仕事のやりがいに繋がれるようにサポートした
 - やりたい仕事や好きな仕事をする事は、職員のモチベーション向上に繋がるため、経営層にはその実現をサポートする環境整備が求められる。
 - 当該病院の看護師たちが「専門的なケアを提供するために資格を取得したい」「看護スキルを向上させたい」と願望を表明した際は経営層がその意欲に応え、資格取得に向けた費用等支援（修学支援手当や研修に係る交通費の支給等）や勤務条件の調整など、支援体制を整備した。
 - 職員のモチベーション向上は業務効率向上につながり、当該病院や地域医療の発展に寄与すると考えている。

【取組を実行・運用していく中での課題とその対応方法】

- 新しく赴任した医師とのタスクシェアする内容を確認・調整することが課題であった
 - 元々勤務している医師とは日常のコミュニケーションを通じて、看護師とのタスクシェアについての意識が合っていたが、新しく着任した医師とは、看護師とのタスクシェアに関して確認の機会が設けられていなかった。
- 課題解決に向けた対応方法
 - 看護師は新しく着任した医師と積極的にコミュニケーションをとり、当該病院で進めているタスクシェアの内容や看護師が提供しているケアについて説明した。さらに、医師同士でも看護師が提供しているケアについて共有が行われ、新たな医師がタスクシェアを行いやすい環境が整備された。

【医師と看護師のコミュニケーション風景】

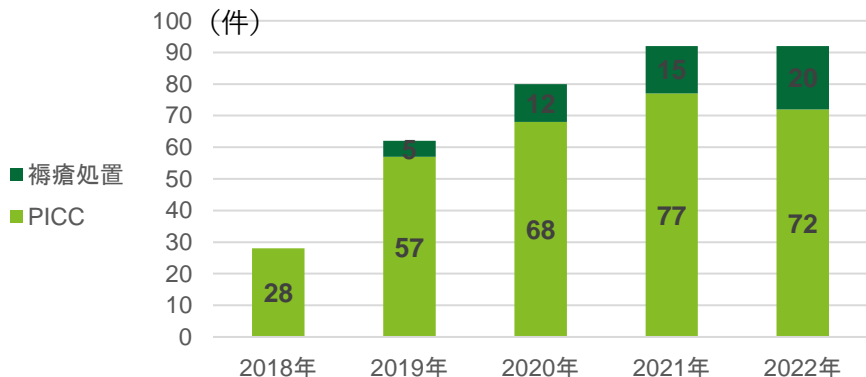


医師業務をタスクシフト・タスクシェアした好事例

特定行為研修修了看護師・医師事務作業補助者による医師の業務負担軽減を図った取組事例 【若草第一病院】

【医師と特定行為研修修了看護師とのタスクシェアによる取組効果】

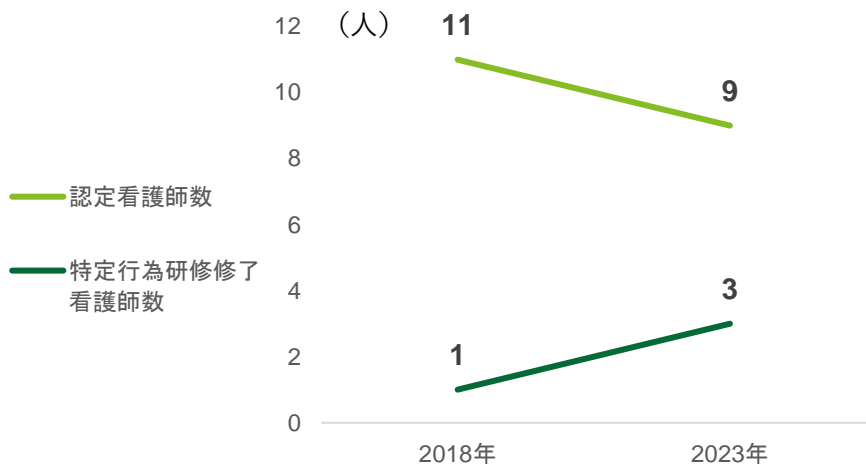
医師と特定行為研修修了看護師との年間タスクシェア件数は増加傾向にあり、医師の業務負担軽減に繋がっていると考えられる。



※PICC及び褥瘡処置の1回あたりの処置実施時間は30分程度。

認定看護師及び特定行為研修修了看護師数

- 特定行為研修修了看護師数は増加傾向にある。



【現場職員の声】



医師

“陰圧閉鎖療法やPICC挿入といった医師の業務を特定行為研修修了看護師にタスクシェアしたことによって、医師の業務量が軽減した。専門性を活かした看護師の活躍は医師だけでなく患者にとっても安心感が生まれる。”

“特定行為研修修了看護師が看護師の意見を集約して医師に伝えるなどしてくれるので、医師と看護師をつなぐパイプ役になってくれている。”



看護師

“専門的な治療や看護が必要な患者・家族に対して最適な看護を実践したく、認定看護師の資格や特定行為研修を修了した。当院では経営層を中心にサポートしてくれるので、やりがいを感じながら患者に寄り添うことができている。”

“外来や診療のため医師の対応が難しく、指示待ちの時間が多かったが、特定行為研修修了看護師によるタイムリーな対応により、医師待ちの解消に繋がった。”

【医師業務を医師事務作業補助者にタスクシフトするための進め方】

- ・ 医師から医師事務作業補助者へのタスクシフトを推進するためのチームを組成した
 - まず初めに医師から医師事務作業補助者にタスクシフトする内容を検討する必要があった。そこで院長を中心に医師のどの業務を医師事務作業補助者にタスクシフトするかを検討するチームを組成した。

タスクシフト検討チームメンバー	
院長	医療技術部長
各副院長	医局事務課長
診療部長	薬剤課長
常勤医師	ME課長
事務局長	感染対策室課長
薬剤部長	医師事務作業補助者
健康情報部長	-

- ・ 医師事務作業補助者へのタスクシフトを実行する前に医師がタスクシフトしたい業務についてアンケートを実施した
 - タスクシフト検討チームは、医師事務作業補助者にタスクシフトする業務を把握するために、常勤医師に対してアンケート調査を行った。
 - アンケートでは、医師が医師事務作業補助者にタスクシフトしたい業務を記入し回答してもらうこととした。
 - 医師事務作業補助者に関するガイドラインなどを参考にし、当該病院で医師事務作業補助者にタスクシフトできる業務をチームで検討し、確定させた。医師事務作業補助者にタスクシフトする業務を記載した「医師事務作業補助者の業務手引書」を当該病院で作成し、医師事務作業補助者にタスクシフトすることができる業務内容を周知し、タスクシフトを開始した。
- ・ 医師事務作業補助者の「教育・研修・研究」体制を充実させた
 - 医師事務作業補助者にタスクシフトする医師のニーズへ迅速に対応するために、医師事務作業補助者のスキル向上が必要であった。タスクシフト検討チームが主導し、医師事務作業補助者協会のキャリアラダーを参考に、当該病院独自のキャリアラダーを策定した。
 - 医師事務作業補助者は医師の業務負担を軽減し、医療の品質向上に貢献する重要な役割を果たしているため、当該病院では医師事務作業補助者のスキル向上のための機会を提供することとした。

医師業務をタスクシフト・タスクシェアした好事例

特定行為研修修了看護師・医師事務作業補助者による医師の業務負担軽減を図った取組事例 【若草第一病院】

【具体的な取組内容】

- 医師が行う業務のうち、文書作成等の事務的な業務を医師事務作業補助者にタスクシフトした

当該病院の医師が行う業務のうち①各診療科外来での診療補助、②医療文書の作成補助、③診療データの登録・報告等の補助を医師事務作業補助者にタスクシフトし、医師の事務業務の負担を軽減を図っている。

	各診療科外来での診療補助	医療文書の作成補助	診療データの登録・報告等の補助
医師から医師事務作業補助者にタスクシフトしている業務	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 電子カルテの代行入力 ✓ 診察や各種検査の予約 ✓ 説明書・同意書の発行 ✓ 処置料、指導料、管理料の入力 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各種診断書、証明書、意見書 ✓ 他施設への紹介状、診療情報提供書、返書 ✓ 訪問看護指示書 ✓ 退院時要約 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 院内がん登録 ✓ 各症例登録 ✓ 各種統計・調査のデータ整理
	クリニカルパス関連管理業務の補助※		
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 医療者用パスに従い検査・投薬の代行入力 ✓ 新規パスに対応したオーダーセット及び入院指示セットの電子カルテシステムへの登録 ✓ 改訂されたパスのオーダーセット、入院指示セットの変更作業 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ パス適用決定患者の患者用パスの作成 ✓ パス委員会で認可された新規パスの電子カルテシステムへの文書コンテンツ登録 	

※日本クリニカルパス学会の「電子クリニカルパス操作における事務職(医師事務作業補助者・クラーク)の代行操作に関する指針(案)」に従い、クリニカルパスの代行入力を行っている。

医師業務をタスクシフト・タスクシェアした好事例

特定行為研修修了看護師・医師事務作業補助者による医師の業務負担軽減を図った取組事例 【若草第一病院】

【継続的に取組を実施・運用するために行った施策】

- 医師事務作業補助者の自立に向け、医師と看護師が業務のサポートを実施している
 - 医師事務作業補助者1名につき、医師1名と看護師1名がサポートに付いている。医師の診療補助や医療文書作成補助の際に不明点があれば、すぐに確認できるような体制を整えており、医師事務作業補助者が安心して業務に取り組めるように心がけている。
- 医師事務作業補助者にも学会で発表してもらうことで、医療の質向上に貢献する大切な役割を担っていることを感じてもらっている
 - 医師事務作業補助者には、日本医師事務作業研究会などで学会発表の機会を提供し、医師事務作業補助者自身が医療の品質向上に貢献している重要性を認識している。2021年には、医師事務作業補助研究会全国大会で「医師事務作業補助者の業務日報様式の検討と見直し」を発表し、優秀演題賞を受賞した。

【医師と医師事務作業補助者のコミュニケーション風景】



【取組を実行・運用していく中での課題とその対応方法】

- 採用される医師事務作業補助者の多くは事務作業のスキルがあるが医療に関する知識がない
 - 当該病院で医師事務作業補助者として採用される多くの方々は、事務スキルを持っているが、医療に関する知識が不足している。特に医学用語の使用方法や医療文書の特有の表現に苦勞する職員が多い。
- 課題解決に向けた対応方法
 - 四半期に1回程度、医師が講師となり勉強会を開催している。当院で提供される一般的な医療内容や各部門の医療内容、医療用語について、わかりやすく解説している。

【医師事務作業補助者向け勉強会の内容】

勉強会の内容	講師
消化器内科疾患	消化器内科 副院長
病理結果報告書の読み方	院長
循環器疾患 4回シリーズ ✓ 循環器疾患の主な症状と鑑別について ✓ 主な循環器疾患について ✓ カテーテル治療について ✓ ペースメーカーについて	循環器内科 副院長
呼吸器疾患 2回シリーズ ✓ 慢性閉塞性肺疾患 ✓ 睡眠時無呼吸症候群	呼吸器内科 部長

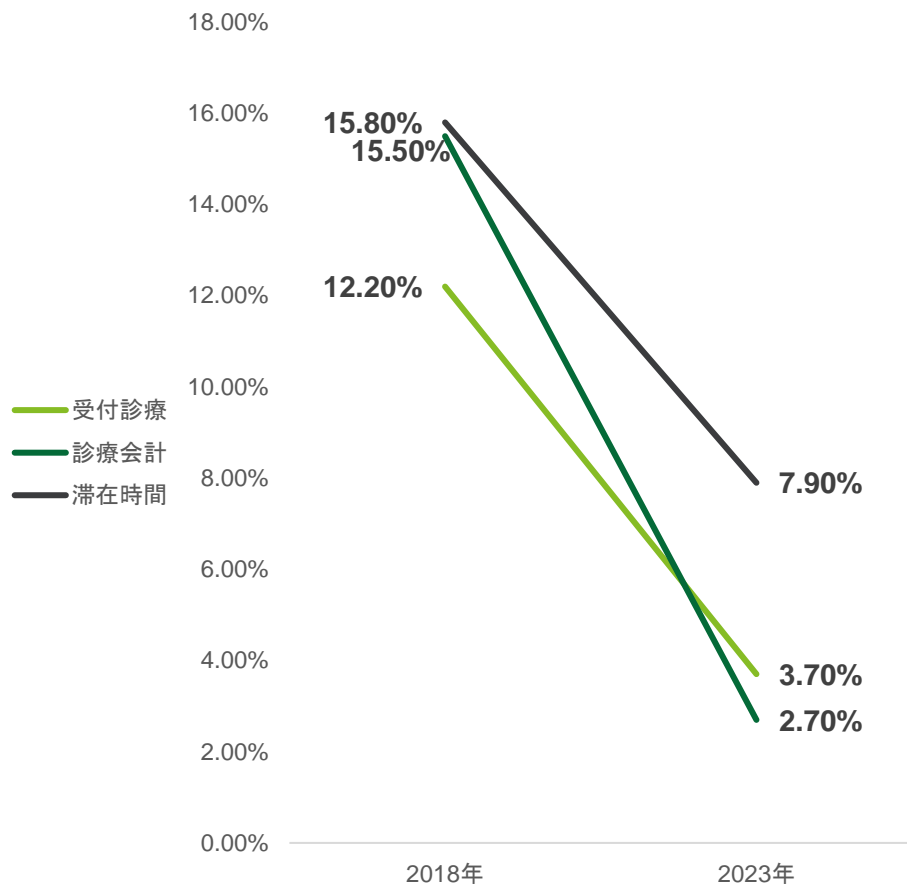
医師業務をタスクシフト・タスクシェアした好事例

特定行為研修修了看護師・医師事務作業補助者による医師の業務負担軽減を図った取組事例 【若草第一病院】

【医師から医師事務作業補助者へのタスクシフトによる取組効果】

医師が患者の診察の合間に実施していた事務作業時間が減少したことにより、患者の在院時間に関する満足度が向上していると考えられる。

患者の「受付診療・診療会計・滞在時間」に対し長いと感じた割合



【現場職員の声】



医師

“電子カルテの代行入力や診断書等の医療文書作成など、医師の事務作業を医師事務作業補助者にタスクシフトしたことによって、業務負担軽減に繋がったことに加え、患者に向き合う時間が増えた。また、医師として専門性を発揮できる業務に集中できるので、医療の質の向上に繋がっている。”



医師事務作業補助者

“当院の医師事務作業補助者には「教育・研修・研究」の体制が整っている。多忙な医師の事務作業をサポートすることによって、医師の負担軽減を図るとともに、チーム医療推進への貢献ができる。また、研鑽を積み、スキルアップすればするほど医師から頼られる存在となり自身のやりがいに繋がっている。”